

中スラウェシ・焼畑の民の自然観

—日本・インドネシアをつなぐ「学びあい」の実践から—



報告者は、2004年以來、在地の自然資源管理を軸として、インドネシアと日本の山村の経験に学びあう調査と交流を試みてきた。本報告では、インドネシアでの調査・交流の地の一つとなった中スラウェシのトンプ集落における映像記録の成果を題材に、次の2点について報告し、検討したい。第一に、中スラウェシの焼畑の民の自然観の一端を示し、精霊・祖先・カミなどの「超自然」を含んだ資源管理のあり方と、国の法制度・政策や社会経済的变化の下での、その変化・変容の方向性を考えること。第二に、調査・交流に関わる者同士の「学びあい」を意識してすすめた(実践型)地域研究の可能性と課題を整理すること、である—
(報告者要旨より)



島上宗子 氏

(愛媛大学SUIJ推進室/一般社団法人あいあいネット)

日時: **2014年6月17日(火)16時~**

場所: **京都大学 総合研究2号館**

4階大会議室(AA447)



HERE!

参加費・事前登録は不要です。
皆様、奮ってご参加下さい。
また、会后には懇親会を予定しております。

<お問い合わせ先>

廣瀬: 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
hirose*asafas.kyoto-u.ac.jp

柳澤: 京都大学地域研究統合情報センター
masa*cias.kyoto-u.ac.jp

渡辺: 総合地球環境学研究所
isseiw*chikyu.ac.jp

メールでお問い合わせの際には、*を@に変更してご送信下さい。